

7.2 外部資金による研究の概要

人口減少および気候変動に対する野生動物の行動・生態・生理的応答指標の確立

(独)日本学術振興会科学研究費(令和3～7年度)

角田裕志(代表)

共同研究機関:(国研)農業・食品産業技術総合研究機構、山形大学、日本獣医生命科学大学

1 研究背景と目的

本研究では、人口減少や気候変動に伴う中大型哺乳類の行動・生態・生理的な応答を明らかにし、将来の野生動物の分布変化や個体群動態への予測の基盤となる行動・生態・生理的指標の確立を目的とする。具体的には、人口減少に関して農山村の過疎化や放棄地の増加が野生動物の行動、生息地利用の変化と血中・糞中の各種ホルモン物質の量や動態に及ぼす影響を各種の野外調査や野外実験、室内実験を通して明らかにする。また、気候変動に関しては、猛暑や多雪などの極端気象に対する野生動物の行動的な応答と生理的影響に関してGPS発信器に体温ロガーを装着したバイオリギング法によって明らかにする。

2 今年度の実施内容

野生動物の行動や生息地利用と人為攪乱強度との関係を明らかにするために、埼玉県秩父市の奥山地域および福島県南会津町の里山、奥山地域において自動撮影カメラを設置し、ニホンジカやイノシシを中心とした中大型獣の調査を行った。2021年11月までに回収できたデータについては、撮影動画を確認して獣種や撮影時間などを記録・集計し、またニホンジカ(*Cervus nippon*)に関しては先行研究のプロトコルを参考にして行動分析を行った。

気候変動影響に関しては、次年度から本格的に開始するバイオリギング調査に向けて、捕獲用罟や捕獲場所を選定し、捕獲予定地での自動撮影カメラによる予察調査などの事前準備を進めた。

3 来年度の予定

秩父市と南会津町における自動撮影カメラによる調査を継続するとともに、人為攪乱強度が異なる他地域においても野外調査を計画する。前年度までに収集した自動撮影カメラデータについては動物種の出没状況や行動生態の分析を順次進める。また、糞中ホルモン解析のための糞サンプルの採集プロトコルを確立して、各調査地域における自動撮影カメラの調査時に糞サンプル採集を行う。

野生動物の気候変動応答に関する研究については、動物の捕獲と追跡調査を順次開始する予定である